

2017 おもしろ自然楽校の夏休み

自然の中で はじけよう



大阪自然教室 〒530-0015 大阪市北区中崎西 1-6-36-308
TEL : 06-6372-1561 (木曜日夜のみ)

Web : <http://osakashizen.org/>

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 「子どもゆめ基金」 助成事業

ひん やり川で、

ゆみごうち

「いなば西郷自然教室：弓河内班」募集要項

日 程：第一期 8月4日(朝)～8月8日(夕)

第二期 8月8日(朝)～8月12日(夕)

募集対象：小二 ～ 小五

募集定員：各期 18名 (先着順)

募集期間：6月19日 ～ 7月14日

参加費：¥28,000-(含登録料2,000)

宿泊場所：鳥取市河原町西郷地区弓河内集落の民家



ひとあばれ

楽しい夏休み、暑いからといってクーラーのきいた部屋でボーとしていたのはもったいない! さあ、鳥取・西郷に行って思いっきり遊ぼうよ!! 昨年から始まった新しいフィールド・鳥取市河原町西郷地区を流れる曳田川は、スリルある飛び込みができる深い淵や岩すべりの場所があちこちあるんだ。

晴れた日には冷たい川で大はしゃぎ。タイヤの浮き輪に乗って、急流すべりをするのは最高だね! それに、高い岩から勢よく飛び込むのもスリル満点、とても気持ちがいい! 魚を見つけたら、頑張って手づかみで捕まえてみよう。もし捕まえたなら君はヒーロー! 雨が降ってもお楽しみはあるよ。竹細工や小枝細工のクラフトにチャレンジしよう。家の人へのおみやげに作るのもよし、自分のために作ってもいい。いくつ作るかは君のアイデア次第だ。

仲間とリーダーと遊んでたら、あっという間に時間はすぎていく。遊びつかれたら、おいしいご飯をもりもり食べよう。だれだい! 「野菜はキライだ!」なんていっている子は。近所のおばさんたちにいただいた、とれとれの野菜は都会のスーパーの野菜とはひと味もふた味もちがうんだよ。キュウリやトマトを丸かじりしよう!

夜はカエルの鳴き声を聞きながら、夜空に散らばる星をながめて一日の疲れをいやそう。流れ星を見られなくても、星空をながめているだけで幸せさ! それくらい河原・西郷の星はきれいなんだ。

自然がいっぱいなのは、最高の四泊五日が待っている。仲間とリーダーたちと一緒に、ステキな夏の思い出を作ろうよ!

手加減しないぞ、大自然!

そまごや

「いなば西郷自然教室：柚小屋班」募集要項

日 程：第一期 8月4日(朝)～8月8日(夕)

第二期 8月8日(朝)～8月12日(夕)

募集対象：小六 ～ 中三

募集定員：各期 10名 (先着順)

募集期間：6月19日 ～ 7月14日

参加費：¥28,000-(含登録料2,000)

宿泊場所：鳥取市河原町西郷地区柚小屋集落の民家

子供会議：7月29日(土) 午後1時半～4時



かつて24泊の『熱田』という伝説の企画があった。小屋の軒先に支柱を立ててトタンを葺いて食堂とカマド場を設け、五右衛門風呂には屋根がなかった。電灯と冷蔵庫はあるものの、便利な電気製品やガスコンロなどなかった。燃料はすべてマキ、前年に切り出して乾かしたものを、毎日割らなければならない。食事を作ってくれる人もおらず、お釜でのご飯炊きに失敗してベチャ飯になっても、おかずが少なくてもまずくても、誰にも文句を言うことができない。

ただそれを食べるしかない。モタモタしていると、朝・昼・晩の食事を作るだけで終わってしまう。生活していくための仕事を、仲間と協力してテキパキと片づけ、川に泳ぎに行ったり、山に登ったり、「お祭り」をしたりと、遊ぶことはたくさんあった。

そう、『熱田』での生活はすべてを自分たちの責任で一から生活を創っていかねばならなかった。でも、なぜか楽しくて、最後の日が来ても大阪に戻りたくなくなっていた。それどころか、また次の年もきてしまう『ふるさと』となっていた。

弓河内集落から曳田川8キロ上流に民家5軒の柚小屋集落がある。1軒の空き家をお借りして、自分たちで生活を創ってもらおう。調理と風呂の火力はマキ。スパーンと一発で割れたら気持ちがいいぞ～。溪流となった曳田川は奇岩群や淵が連続しているある。集落の真下には魚止滝があり、さらに上流には滝が大小いくつもある。中には千量敷と呼ばれる滝壺もあるなど、遊び場には事欠かない。でも、仲間と協力して仕事をしないと遊べないよー。

命めぐる川端のある暮らし

「生水の郷自然教室」募集要項

日程：7月29日(朝)～8月1日(夕)

募集対象：小二～小六

募集定員：14名(先着順)

募集期間：6月19日～7月14日

参加費：¥22,000-(含登録料2,000)

宿泊場所：滋賀県高島市新旭町針江の民家



琵琶湖の西にある生水の郷・針江では水があちこちで湧き出ているので家々には「川端」がある。湧き出した水が最初にたまる壺池の水は飲み水や顔を洗うのに使う。ここで冷やしたトマトやキュウリは格別においしい！壺池からあふれ出た水がたまる端池では、お米を洗ったり食後の洗いものをする。ご飯つぶや野菜くずは端池で飼われているコイが食べてくれる。さらに端池は水路と通って針江大川となり、琵琶湖へと流れ込む。

針江大川にはきれいな水でしか育たない梅花藻の白くて可愛い花がゆれて、琵琶湖からのぼってきた小アユの群れが泳いでいる。みんなで力を合わせて追い込むと、反対側のアミにはもうアユが入っている！タイミング良くアミをあげないと、逃げられてしまうぞ。そうそう針江大川の藻の中に手を入れて、大物の魚の手づかみにも挑戦しよう。指先をかすめた魚の感触におどろかないでサッとつかめるかな？そう、とった魚を全部さばいて食べるのが針江でのお約束。おもしろいほど魚がとれるからといって、とりっぱなしはナシだ。魚をさばくのは、最初はちょっと勇気がいるかな？

針江では、昔から年4回針江大川や河口の舟着き場の藻刈りをし、冬は琵琶湖湖畔のヨシ刈りをして環境を守っている。毎年行っている自然教室の分担場所はお寺の池。今年も池に侵入した外来種・オオカナダモをとるのをお手伝いします。

自分たちでとった魚と野菜、生水の水で炊いたご飯を食べたら、もう幸せいっぱい！毎日楽しいことがたくさん待っているよ。

真っ赤な太陽、青い空

「祝島自然教室」募集要項

日程：8月17日(朝)～8月21日(夕)

募集対象：小四～小六

募集定員：18名(小六・小五優先)

募集期間：6月19日～7月14日

参加費：¥38,000-(含登録料2,000)

宿泊場所：山口県上関町祝島の民家



照りつける太陽とキラキラ光る海、もちろん、泳ぐしかないね、水中ゴーグルを持って、さあ、海に出かけよう！潮が満ちている時には、東の波止場の高い防波堤から飛び込もう！ちょっと高さがあるから最初は勇気がいるけど、仲間に励まされて一度飛び込めば、もう病みつきになること間違いなし。引き潮の時は磯に行こう！磯には貝、カニ、ウニ、タコなど、海の生き物がたくさんいるよ。

祝島の集落は北に固まっているけど、足をのばして反対側の三浦湾にも行ってみよう。ここの海岸は珍しい粒ぞろいの小石の浜。三浦湾に面した棚田は、人間の背よりも高く積まれた石組の棚田が何段も重なり、本当に天まで昇っているようだ。棚田には耕作をやめた放棄田が増えているが、そこの氏本農園に行ってみよう。氏本さんは放棄田にブタを放して、畑に復元している。ブタさんたちの働きぶりをぜひ見てみよう。(氏本さんは豚田兵と呼んでいる)

海で遊ぶことに疲れたら、「未来に残したい漁村の文化遺産」に選ばれた集落の中を探検しに行こう！台風の強い風をさけるため、瓦は白い漆喰で固められ、「練塀」と呼ばれる分厚い石垣に囲まれた独特の家々と海とが一体となった風景は、きっと君の心に強く焼き付くはずだ！たっぷり遊んでお腹が空いたら、ご飯の準備をしよう。毎日、食卓には漁師さんから差し入れてもらう新鮮な魚が並ぶ。どうやって食べたらおいしいかな。島のおばさんたちに聞いて、魚のさばき方も教えてもらおう。おばさんたちはスイスイと魚を三枚におろしていく。君にもできるかな？

沈下橋から飛び込もう！

「四万十自然教室」募集要項

日程：8月17日(朝)～8月22日(昼)

募集対象：小六～中三(中学生優先)

募集定員：12名

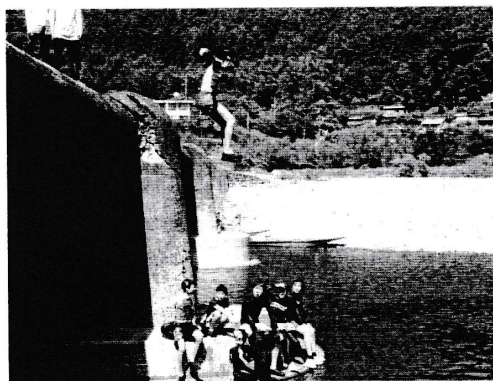
募集期間：6月15日～7月12日

参加費：中学生 ¥45,000-(含登録料)

小学生 ¥39,000-(含登録料)

宿泊場所：高知県四万十市口屋内 口屋内公民館

子供会議：8月13日(日)午後1時半～4時



ジメジメ暑い大阪の夏にめげそうになったら、四万十に行こう！
「日本最後の清流」と言われる高知県の四万十川は、そう言われる通り自然がいっぱいで本当にきれいな川だ。

別名「暴れ川」と呼ばれる四万十川が大雨によって増水すると、沈下橋は名前の通り濁流の中に沈下してしまう。その沈下橋からの飛び込みが『四万十』での最高のお楽しみ！工事中でしばらく飛び込みができなかったけど、2年前4年ぶりに復活した。今年も天気が良ければ君たちの番だ！橋の上から4メートル下の川面を見ると、あまりにも高くて足がすくんでしまうかもしれない。何回かためらった後、やっとの思いで飛び込みに一度成功すると、二度目からは怖くなくなり、病みつきになること間違いなし！

一日は支流の黒尊川に行きたいね。黒尊川は魚が多く、本流よりもっと水が澄んでいるので、水に顔をつけるとすぐに魚を見つけれられる。浮き輪での急流すべりも気持ちがいいんだよ。他にも、川で漁をしている漁師さんから昔の話を聞いたり、仕掛けを作って川に棲息しているカワエビを捕るのにも挑戦だ！

晩ご飯の後は散歩をしようか。大阪の騒がしい夜とは全然違う。四万十の川音と虫の声、キラキラと輝く満天の星空。そして、漁師さんたちがしている「火振り漁」が見えたら最高だね！

最後の日には朝早く口屋内を出発して、土佐佐賀で海水から天日塩を精製している「あまみ屋」さんを見学させてもらってから、近くの海岸に行き遊び、夜行バスで大阪に戻ってくる。

おかあさん・おとうさん方へ

11年間続けた「智頭自然教室」に代わり、昨年より鳥取市河原町西郷地区弓河内集落において、夏休み・冬休み・春休みに「鳥取自然教室」実施してきました。今年は、昨年の「鳥取自然教室」を低学年対象(小二～小五)の「いなば西郷自然教室：弓河内班」とし、新たに、杣小屋集落において高学年対象(小六～中三)の「いなば西郷自然教室：杣小屋班」が加わりました。

同封しました申込用紙(兼健康調査票)に必要事項をもちろん御記入のうえ事務局までお送りください。受付ましたら、集合・解散の場所と時間、持ち物や参加費用の振り込みについてのご案内をお送りします。複数の企画に参加することも可とします。また、参加費には保険代などにあてる登録料(2,000円)が含まれています。月例会会員の方はすでに支払っていただいていますので、登録料を省いた金額となります。また、月例会会員外の方で二企画に参加される場合は登録料は一回のみとなります。(冬休み企画・春休み企画も有効です)

なお、『いなば西郷：杣小屋班』と『四万十』は打合せ会(子ども会議)は自然教室事務局に於いて行います。企画は「子ども会議」からスタートしますので、その日か、別に設定する予備日に必ず参加してください。

「いなば西郷自然教室」につきて

『いなば西郷：弓河内班』は二期間：二班編制です。農家民宿許可を取った二軒の民家に分宿し、食事はリーダーが集落公民館で賄いをします。どちらかの期に片寄らずバランスよくできたらと思います。どちらの期でも参加できる方は申込用紙にその旨ご記入ください。どちらに参加していただくかの確定は7月1日までにご返事します。

『いなば西郷：杣小屋班』はかつての『熱田』の復活を図ります。『熱田』での生活は過酷でした。それに、三度の食事だけでなく、マキ割りなどたくさんの仕事がありました。仲間やリーダーと協力して生活を創っていく、そこが醍醐味であり、子どもたちもよく働き、遊び、楽しんでいました。小学高学年はゴマメとして仲間に加わり、経験を積んだ中学生が先頭に立ち、リーダーとしての自覚を持った高校生が兄貴・姉貴分として世話を焼き、若い

大学生や社会人が全体の切り盛りをする。『熱田』は大阪自然教室が目指す異年齢集団による育ちの原点でした。

昨年秋から始めていた家の中の整理も終わり、軒先に食堂を兼ねたスペースをウッドデッキにするなど、夏のための外回りの整備に入りました。昔の『熱田』と比べて、ちょっと快適すぎるのではとの声もありますが・・・。

今回は初めてであり、整備状況や周辺のフィールド確認など、まだ詰め切れていませんので、とりあえず募集は4泊ですが、8泊も検討したいと思います。8泊にチャレンジしたい！方は申込用紙に記入してください。8泊の費用はプラス14,000円の予定です。

『いなば西郷』は二班一緒に同じ貸切バスに乗ります。集合はJR新大阪駅に午前8時15分、解散は同じ新大阪駅に午後6時です。



“祝島自然教室”につきまして

昨年は、例年の盆明けの日程期間に4年に一度のお祭り「神舞」があり、お盆前で日程調整をしましたが、一時地元の方との行き違いから実施が危ぶまれました。なんとか、規模を半分にしておこなった。そのため、2年前は募集要項発送後1週間で定員に達しており、昨年も出足は順調でしたので、小六・小五にかなり積み残しがあります。そこで、受け付けに優先順位をつけることにしました。

小六と小五の月例会会員の方。続いて、小四でこれまで『智頭』・『鳥取』・『生水』に参加したことのある月例会会員の方と会員外の小六と小五の方。そして、夏の企画には参加したことのない小四の会員とします。これまでの問合せの状況では、小四の会員外の方は難しいかなと思います。また、優先順位は6月30日まで有効とします。『祝島』は3年前より新幹線を利用しています。

集合はJR新大阪駅に午前7時45分、解散は同じ新大阪駅に午後6時30分頃の予定です。

“生水の郷自然教室”につきまして

メディアで度々紹介されている「生水の郷：滋賀県高島市新旭町針江集落」において、12年目の今年も地元の「生水の郷委員会」の方々に協力していただいて企画の充実を図ります。藻刈りのお手伝いや琵琶湖に仕掛けた網やモンドリを引き上げたり、4年前から耕作を続けている畑も本格的に活用していきます。

集合はJR新大阪駅に午前8時15分、解散は午後5時30分頃の予定です。往復はJR湖西線：新快速です。

“四万十自然教室”につきまして

『四万十』は中学生のステップアップの企画として位置づけ、春の『ぶらり旅』などにつなげていくための企画です。リーダーの数も少なく、仲間と協力して自分たちの力でやってもらうため中学生優先とします。

例年、小六の参加は中学生の申込状況を見ながら受付ていますが、今年は中学生の会員が三・四年前の倍近くになっていますので、今年はあまり余裕ありません。中学生は部活の日程が確定しないので申し込みがどうしても遅くなりますが、参加を検討している方は6月30日までに「行きたいと思っているが、日程の調整中」と連絡ください。なお、『四万十』に参加できなかった小六の方は『祝島』に参加できるようにします。

また、「子ども会議」は8月13日(日)を第一候補として、担当するリーダーと参加者で再度検討してお知らせします。交通機関は往復ともに高知までは高速バスを利用し、帰りは夜行バスとなります。集合はJR大阪駅に午前7時、解散は事務所で後片づけをしてから午前10時頃の予定です。

アトピーにつきまして

アトピーの子どもたちが増えてますが、申込用紙の「アレルギーがありますか」の欄に内容と対処について詳しくお書きください。特に除去する食材がある方は必ず連絡下さい。『いなば西郷：弓河内班』・『祝島』・『生水の郷』ではリーダーが食事を作るので、少しでも対応できるように検討します。しかし、完全な代用食・除去食はできません。『いなば西郷：柚小屋班』と『四万十』の食事は細かい配慮はできそうにありません。

大阪自然教室 (since 1973) のこだわりは “異年齢の子どもの群れでの育ち”

1973年秋、大阪の自然保護団体で活動していた20才前後の若者たちが、都市の子どもたちに自然体験の場を提供することを目的に活動を開始しました。会員時代（小学二年～中学三年）を終えた者たちがリーダーの七割ほどを占め、すべての企画・運営がリーダーたちの自己責任によって引き継がれ、今年度は45年目になります。

「子どもは異年齢の群れで育つ」をモットーに、こんなことをしているのを学校の先生やおとうさんおばあさんが見たら怒られるだろうな、といったヤンチャな時間と空間を子どもたちと「共に育つ」場として共有し、遊ぶ施設や道具がなくても仲間たちと創意工夫をして遊べばおもしろいぞ、と子どもたちと自然の中で遊んできました。自然を頭で理解するのではなく、自然のおもしろさ・楽しさを五感をフル動員して体感して欲しい、と願って活動を続けてきました。



もう一つ、命を支える第一次産業の農業や林業や漁業にこだわって企画を立てています。宿泊企画も野外活動センターや少年自然の家などの既存の施設は一切使わず、自然の豊かな所＝過疎地の山間地や離島に住むおじさんおばさんたちの懐に飛び込み、農作業や山仕事などの生産活動をしている横におじゃまし、おじさんおばさんたちにかまってもらいながら長年継続して同じ場所で活動してきました。活動場所が「こんにちは」と訪れる観光地でなく、子どもたちは「ただいま」と言い、おじさんおばさんたちからは「お帰り」「今度はいつ帰ってくるの」と言ってもらえる“ふるさと”に、と願って企画しています。

大阪自然教室の夏企画の特徴は、小規模であること、そして活動地

大阪自然教室のこだわりから立案された企画の特徴は、14～18名と小規模であること。また、基本的に子どもと行動するリーダーは子ども3・4名に1名、さらに賄いなど活動を支えるリーダーが配置され、初めての子どもに対してもきめ細かく対応できる体制です。

なんといっても、最大の特徴は活動地です。現在、山間地や離島では急速に過疎化・高齢化が進んでいますが、いずれの地も住民が自らの力で地域を活性化させようという頑張っている所ばかりです。

特に、上関原発が沖合3キロの目の前に計画された祝島では、島の豊かな自然と原発は共存しないと、巨額の前払補償金を拒否して35年間島ぐるみで反対運動を続けています。国の後押しを受けた中国電力は、度々アセスメント調査を強行しようとしてきましたが、その度に祝島の人たちは力を合わせて阻止してきました。東北大地震のあと、まだ原発を作る動きがありますが、自然と共に生きる道を選択した祝島の人たちははね返しています。



写真家今森光彦さんが撮影したNHKのドキュメンタリー「里山・命めぐる水辺」で注目をあびた生水の郷・針江の人たちは「生水の郷委員会」を立ち上げ、行政に頼らず環境保全活動や地域づくりに取り組んで10周年を迎えた一昨年、環境庁のエコツーリズム大賞を受賞しています。



「いなば西郷自然教室」は、兵庫県美方町で31年、その後鳥取県智頭町で11年、昨年からは鳥取市河原町西郷地区に移しました。地区を流れる曳田川は水量はさほど多くないものの、深い淵がいくつもある変化に富んだフィールドです。ここでも「いなば西郷むらづくり協議会」の方々が精力的に地域づくりに取り組んでいる魅力的な地域です。

大阪自然教室は交流を通してこれらの人たちと連携し、地域の活性化に少しでも役に立てたらと考えています。

夏企画の問い合わせは、西村（090-1149-4326）までご連絡ください。